



〔前号のあらすじ〕

のらりくらりと暮らしていた小天狗の趣海坊は、「人をひとり、天狗にする」という修行のため、山を追い出される。出会ったのは、旅医者（たびいしや）の徳本。趣海坊は、徳本を天狗にするためいつしよに旅を始める。ある日、二人は病にふせるひとりの娘と出会うが……。

「先生、娘は、ナギはどうでしょう」

母親が心配そうに尋ねます。

徳本は魂が抜けたように答えませんでした。

趣海坊は草履（わらじ）を脱ぎ捨てて徳本の向かいに腰を下ろしました。そこで娘の顔を見て、ふむとうなずきました。

ナギと呼ばれた娘は苦しそうに咳をしつつ、うつろに徳